

(2) 週一時間のゆとりを生かした授業

宮田 学 山田 雄一

1. はじめに

指導要領が改訂になり、54年度まで週4時間行われていた中学校の英語の授業が、週3時間で行わなければならなくなった。55年度はその過渡期であり、本校では中2が週4時間、中1が週3時間という時間割であった。中1の担当は高橋で、初めて週3時間で授業を行ったのだが、その実践と工夫は前出の(1)を参照されたい。ここでは、宮田、山田が担当した中学校2年の授業について触れておきたい。

この試みは、54年度中1を担当になった宮田、山田が、週3時間でも終えることのできる教科書(“New Horizon English Course” 東京書籍)を用いているのだから、ゆとりとなり得る週1時間を、新しい試みに当ててみようということから始まった。54年度は、前半で、宮田がGDMを用いた授業、山田がゲームや歌を取り入れた授業を試み、後半においては、能力別にA組B組の生徒をグループ分けし、小グループ別に能力に応じた授業を、残り的大勢に対しては、Hearing, Speakingを重視した、総合復習の場となる授業を試みた。この実践報告と反省、まとめは、昨年度(55年度)発行の本校研究紀要、第25集に記してあるので、是非参考にされたい。

昨年度中1に対して実施した合同授業は、アンケート結果から見ると必ずしも成功したとは言えなかったが、それなりの成果をところどころに見つけて、継続して試みを続けたいと考えていたところ、幸運にも、宮田、山田でひき続き2年を担当することができ、しかも、前年同様に週4時間を確保することができたので、反省を生かして新しい形の合同授業を行いたいと考えた。

しかし本校では毎年、6月と9月に教育実習があり、かなり多数の教育実習生が来校するので、ひき続き一学期当初から行うのが困難であった。そのため55年度の合同授業は、9月の教育実習の終わった後の、9月25日からスタートした。

2. 昭和55年度における試み

前記のように、教育実習等の都合から、本年度の合同授業は、9月25日(木)よりスタートした。昨年度の

グループ分けは、能力別に5～6の小グループに分け、小人数授業ではその能力に応じて授業を展開することを一つの柱としたが、アンケートの結果、そのようにグループ分けされることに「いやな感じがした」と答えた者も少なくなかった。又、多人数の授業では、どうしても教師の指導がゆきとどかず、騒がしくなる傾向が見られた。それで、グループ分けは、能力の上位、中位、下位をまんべんなく各班に取り入れ、上位の者が下位のものを指導したり、ひっぱっていけるように編成し、グループ活動を取り入れた授業を行うことをもくろんだ。以下はその実践過程の報告である。

a) グループ分け

成績が、上中下の生徒から成るグループを、A B各クラス6つずつ(各グループ6～7名)作り、この班編成を活用して、授業にグループ活動を組み込んだ。

普通教室ではA B各クラス1班ずつ計2グループを視聴覚教室では残りの10グループを宮田、山田が交替で指導した。これは昨年度と同じ形である。

b) 教材

2年生になってからの学習内容を次の8つの項目に分類した。

	項 目	実施月日
1	過去時制：Be 動詞／過去進行形	9月25日
2	過去時制：一般動詞	10月2日
3	不定詞	10月16日
4	助動詞：may, must, have to	10月30日
5	未来時制：be going to, will	11月20日
6	現在完了	11月27日
7	命令文、感嘆文	12月4日
8	動名詞	12月11日

この合同授業の目的は、普通授業で学習した重要項目を総合的に復習、応用練習することなので、項目の配列は、普通授業で行った後、なるべく早いうちに合同授業で定着、発展ができるよう考慮した。項目の1～4は一学期の新出事項であり、5～8は二学期の新出事項である。三学期の新出事項である受動態は、三学期学習後に合同授業に組み入れたいと考えた。

さて教材であるが、

A：重要文の書き取りと暗唱

B: テープと絵を使用した口頭練習

C: 応用の読み物

の3本柱で、プリント教材を作成した。この中から、「№3. 不定詞」のプリントを、参考資料として後に付しておく。

c) 授業の手順

視聴覚教室(多人数授業)では、大体、次の要領で授業を進めた。

① Dictation 各項目の最も基本的な重要文を3つ程、全員に書き取らせる。

② 書き取りの終わったところで、プリントを配布し、「A: 重要文」を見て各自に答え合わせをさせ、それを各班ごとに暗唱させる。班長、副班長を中心に、全員が完全に言えるようになるまで時間を決めて練習させた後、ある班を指名してコーラスで発表させる。個人に課されたのでは、なかなかスムーズに言えるようにならない下位の生徒も班の中にとけこんで、かなりうまく言えるようになるまで練習していたと思われる。又、班どうしで暗唱の競争をさせると、どこの班が一番うまいかと興味を示し、活発に活動する。全員がしっかり言えた班から着席させるなどして、ゲーム形式を取り入れるとさらに活発化した。

③ 重要文を暗唱させた後、それをもとにして絵とテープを使って、口頭練習をさせる。テープで全体に練習させた後、各班で班長の指示でそれぞれ練習させる。この練習は、内容がかなり盛りだくさんで、時間不足になりがちで、やや消化不良となった。教材をもう少し精選すれば良かったと反省している。又、各班とも口頭練習のパターンが、一度テープを聞いただけでは把握しきれず、よほど班長がしっかりしていないと練習がスムーズに運ばなかったし、おしゃべりを始める班もあった。

④ 読み物 各重要項目がいくつか入っている読み物を、新訂教科書(昭56年度以降用のもの)から選び、一部改作してプリントにし、次のような手順を進めた。

I) 新出単語の音読と意味の提示(全体に)

II) 本文の音読(全体で)

III) Questions に答える(班ごとに相談→全体で答え合わせ)

この読み物に関しては、普通の授業に比べて読む量が多い上に、時間が限られているので、うまく消化できるか一番心配された。しかし実際は、生徒たちが一番強く関心を示し、班員どうしがごく自然に質問あったり、教えあったりして意味をつかもうとしたり、Questions に対する正しい英語の答をみんなで考え出そうとするなど、班単位の学習活動に組み入れたことの効果が現れた。特に内容のおもしろい読み物(例え

ば資料1の“名犬ラッシー”)だと、ほとんどの生徒が興味を示し普通の授業ではできない、まとまった量の英文を限られた時間で読み、大意をつかむという、いわゆる速読練習ができて、非常に良かったと考えている。

視聴覚教室の授業では、A B各5グループの、10グループ約70名を指導しなくてはならないので、どうしても各班のグループ活動に頼らなくてはならず、不徹底な面も出たが、グループ活動のおかげで昨年度の全体まとまったの多人数授業よりも、ずっと効果が上がったと思われる。

普通教室で実施した少人数授業(A B各1グループずつの約13,4名)も、今回は、前記の多人数授業とほとんど同じ手順で行ったが、少人数ということで、班による活動に教師の介入する度合は当然強くなり、口頭練習などで、かなりの個人指導ができた。又、読み物においても、適当なSuggestionやヒントを指示できて、多人数だと他人まかせになってしまいがちな生徒の興味も喚起できた。時間的にも多人数授業よりもずっと余裕を持ってでき、A B対抗のゲーム練習をやってみたり、余裕をもって読み物を読んだりする時間も生まれた。このことからして、効果的な英語の授業をするには、やはり生徒10名~20名に1人の教師が必要だと痛感した。しかし現状ではそれも不可能であるので、打開策の一つとしてグループ活動が考えられるのであろう。

今回の多人数授業でも、班による活動をかなり多く組み込んだのだが、生徒たちはこのタイプの学習活動にあまり慣れていないので、グループ活動を円滑に進めることが困難であった。最初のころの授業では、グループ活動そのものの指導にも時間をさいたが、班長によっては活動が停滞してしまうグループも見うけられた。二学期後半にもなると、かなり慣れてはきたがかえってその慣れがマンネリ化を生み、活動に参加しようしない生徒もかなり出てきた。班長の指導、班員の協力養成が課題として残っている。

3. アンケートと反省

三学期になって合同授業をどう展開してゆくかは、まとめの時期にあたるだけに、大変重要な問題であったが、我々が、週3時間授業のペースで普通の授業を行いきれず、授業に遅れをきたし、又、重要項目である受動態を一通り終えるのに、学年末テスト直前までかかるという見通しであったため、合同授業を断念し、一月末にアンケートを実施して、本年度の合同授業をまとめてみた。(アンケートの内容は資料2参照)

以下はアンケートの結果である。

1 視聴覚教室で行った授業について			
(1)	男	女	計
ア. とても楽しかった	3	3	6人
イ. 楽しかった	19	14	33
ウ. ふつう	14	12	26
エ. つまらなかった	5	9	14
オ. とてもつまらなかった	1	1	2

(1)の理由

- ⊕暗唱等がみんなでやると覚えやすい 8
- グループでやると楽しい 7
- 普段と違った授業ができる 6
- 両クラスいっしょで楽しい 5
- 友達と相談したり、教えあったりできる 4
- グループだと緊張しない、気楽 2
- 班のメンバーが良かった 2
- 教科書よりプリント(物語)の方がおもしろい 2
- ⊖班がまとまらない、やる気がない 5
- うるさい 4
- グループがいや 2
- えんりよしてやらない 1
- やることがワンパターン 1

理由を記さないものもいたが、概要としては、グループ活動に楽しさを見出している者が多く、教材、A Bの合同授業であること、授業の展開が普段と違っていることに良さを見出しているが、やはり騒がしきは依然としてあり、活動の停滞している班では不満も見られるようである。

(2)	男	女	計
ア. とてもためになった	2	2	4人
イ. ためになった	19	19	38
ウ. ふつう	17	15	32
エ. ためにならなかった	4	3	7
オ. まったくためにならなかった	0	0	0

(2)の理由

- ⊕復習になった 13
- 新しいこと(単語など)が覚えられた 13
- 教科書と違った英語に接することができた 8
- 発音の勉強になった 5

書き方はまちまちだが、概要として、これらの4タイプに分かれた。プリントのAとBでは復習や音声面のためになり、Cでは新しい単語や文に接することができてためになったと考えているようである。

- ⊖うるさくてわからない 4
- 他の人と話をしてしまう 4
- 真剣にとりくめない 2

- つまらない 2
- テープが聞き取れない 2

2 A組又はB組の教室で行った授業について			
(1)	男	女	計
ア. とても楽しかった	2	2	4人
イ. 楽しかった	9	11	20
ウ. ふつう	18	21	39
エ. つまらなかった	12	5	17
オ. とてもつまらなかった	0	0	0
無回答	1	0	1

少人数のため、わかりやすい、という理由が圧倒的に多いが、そのため緊張してしまった(当たる回数が多い)というのも多かった。視聴覚教室に比べて静かで、わかりやすく、班も協力することができた、ことは確かである。

(2)	男	女	計
ア. とてもためになった	5	1	6人
イ. ためになった	19	21	40
ウ. ふつう	18	17	35
エ. ためにならなかった	0	0	0
オ. まったくためにならなかった	0	0	0

教師の指導が行きとどくので、ためにならないと答えた生徒は一人もいなかった。多くのものが、少人数だからわかりやすく、わからないところを先生がいてねいに教えてくれてよかった、とか、緊張して授業に集中することができた、とか答えていた。

3 視聴覚教室と普通教室とではどちらが良かったか			
	男	女	計
ア. 視聴覚教室	27	22	49人
イ. 普通教室	13	16	29
ウ. どちらとも言えない; 無回答	2	1	3

4	男	女	計
ア. 復習ができてよかった	26	25	51人
イ. 復習なのでつまらなかった	3	1	4
ウ. 教科書と違ってよかった	22	13	35
エ. 教科書の方がよかった	12	7	19
オ. 書き取りは難しかった	17	5	22
カ. 書き取りは簡単だった	17	10	27
キ. 暗唱はすぐにできた	26	17	43
ク. 暗唱は時間がかかった	9	6	15
ケ. テープを使ってよかった	13	13	26
コ. 使わなくてもよかった	7	6	13
サ. 読み物はおもしろかった	12	15	27
シ. つまらなかった	6	1	7
ス. むずかしかった	23	13	36

セ. だいたいわかった	11	13	24
ソ. もっと詳しく解釈してほしい	16	10	26

5 A(重要文) B(テープと絵による練習) C(読み物)でどれがよかったか (得点)			
	男	女	計
Aがよかった	97	73	170点
Bがよかった	66	65	131
Cがよかった	85	85	170

6 班学習について			
	男	女	計
ア. よい	18	12	30人
イ. わからない	21	20	41
ウ. よくない	3	7	10

理由

- ⊕協力・相談ができる 14
- わからないところを気楽に教えてもらえる 6
- 楽しい、おもしろい 5
- みんなが参加できる 2
- ⊖しゃべってしまう、うるさい 9
- まとまってやれない 5
- まじめにやれない 4
- 班がいやだった 3

7 これからの合同授業について			
	男	女	計
ア. やった方がよい	21	16	37人
イ. どちらでもよい	15	15	30
ウ. やらない方がよい	3	4	7
エ. 無回答、その他	3	4	7

4. アンケート分析と昨年度との比較

本年度はグループ学習という形を合同授業に取り入れたために、かなり多くの生徒が楽しいと答えていることが目についた。又、教材を3本の柱にして、系統的に用いたので、それぞれためになったと答えた生徒も多かった。班編成についても、昨年とは異なり、能力別ではなくしたので、いやだと感じる生徒は激減した。そして、何よりも、アンケートの一番最後の問いの合同授業を続けた方がよいかどうか、については、

	昨年	本年
ア. 続けた方がよい	25人	37人
イ. どちらでもよい、わからない	30	30
ウ. やらない方がよい	25	7
エ. 無回答、その他		7

上表のように、かなり好印象に変わってきたことがわかる。これは、昨年度の反省を生かして、班活動を取り入れたこと、読み物を取り入れたこと等の成果だと思われる。もちろん、“騒がしい”“真剣になれない”

“つまらない”といったような意見は依然として残っているが、グループ活動を定着させ、我々教師もこういった授業形態に慣れてゆけば、“普通の授業とは違って楽しく”“復習ができてためになり”“発音の練習ができ”“おもしろくて新しい読み物が読める”授業がやっていけるだろう。グループ学習で“協力・相談しながら学び”“わからないところを気楽に聞けて”しかも“ゲーム等を取り入れて”アクセントをつけてゆけば、英語ぎらいの生徒も英語に興味・関心を示し、それが普通の授業へのやる気にもつながるかもしれないと思うのである。

5. まとめにかえて

昨年度とちがって多くの生徒がA B合同授業を続けてほしいと考えているのに、56年度は、カリキュラムの都合から、3学年とも、週3時間で英語の授業を行うことになった。本年度から教科書が改訂されて、その内容は多少やさしくなったものの、現在再び中2を担当している山田は、進度ばかりが気になって、ゆとりのなさを感じている。本紀要前出の高橋が言及した数々の点を痛感しながら授業に取り組んでいる次第である。英語という全く新しい言語を習い始める中学校の低学年に対して、ゆとりを持って楽しく授業を行いたいと考えるのは私共だけではないだろう。私共の試みは全くおもしろいすぎず、たいしたことやっただけではないが、教科書をすすめるだけのきゅうきゅうした授業にならないよう、いろいろな工夫、試みをするゆとりはなくてはならないものだと思う。ゆとりが目的で、週1時間削減された中学校の英語の授業が、かえってゆとりのない授業を生み、生徒の負担を増やし、ひいては高校の英語の授業にもゆとりのなさを増長してゆく結果にはならないだろうか。

〔資料 1〕 教材に使用したプリント例

LET'S REVIEW No. 3 : 不定詞

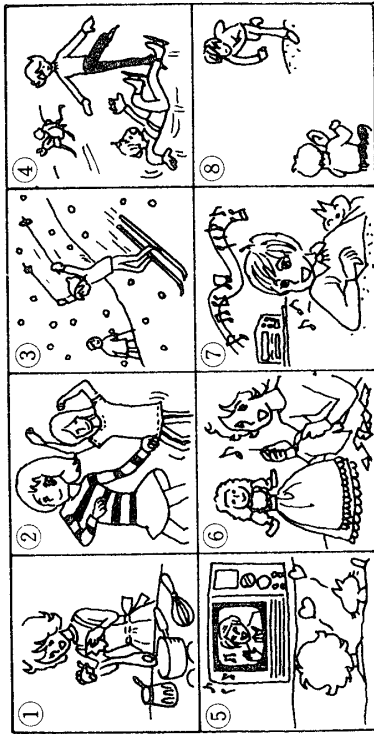
A. 重要文：次の英文の意味を確かめてから、声を出して暗唱しなさい。

- 1 I want to drink some water.
- 2 The boys began to play baseball.
- 3 Mike went to the library to read a Japanese newspaper.

B. 次の絵を見ながら、テープに従って練習しなさい。

(1) A—♪

「私は～することが好きです」という意味の英語を、いろいろな動詞を使って言ってみましょう。テープのあとについて言いなさい。



テープの英語が聞きとれなかったら、ページの下の文字を見なさい。

A—♪

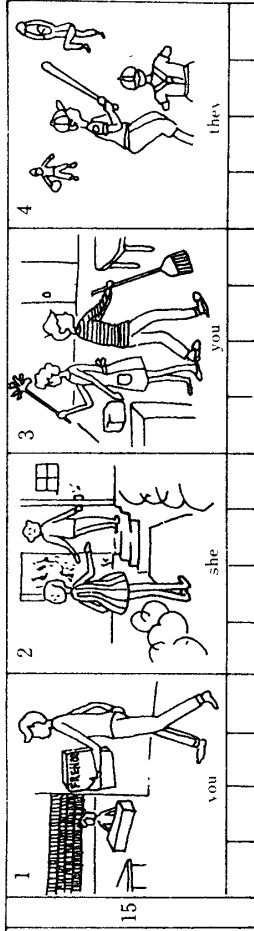
「私は～したい」という意味の英語を、上の絵①～④を使って言ってみましょう。A—♪のlikeの代わりにwantを使います。

A—♪

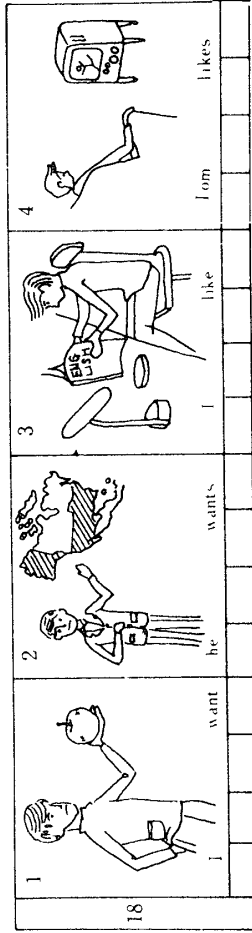
「私は～したかった」と過去の文を上絵⑤～⑧を使って言ってみましょう。上のwantがwantedとなりますね。

- 《 A—♪ の答え 》 ① I like to cook. ② dance ③ ski ④ skate
 ⑤ watch television ⑥ make dolls ⑦ listen to the radio ⑧ play catch

(2)



(3)



C. 名犬ラッシーの物語です。意味を確かめなさい。

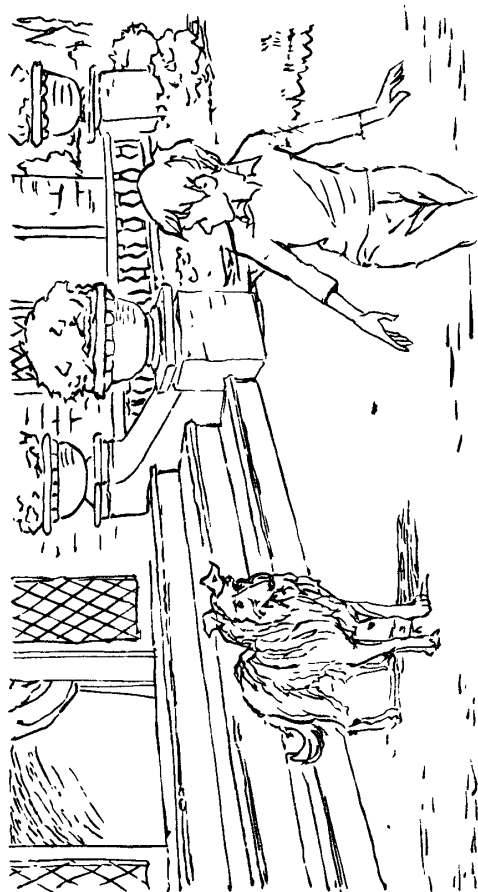
Joe loved his dog Lassie. They lived in a little town in England. Every day Lassie came to meet Joe after school. A duke in the town had many dogs. He wanted Lassie, too. Joe's father was poor and he sold Lassie.

Lassie ran away from the duke. She went to school to wait for Joe. But the boy had to take her back. He was crying, but he said, "Stay here. You must not come to meet me again." Then the duke sent Lassie far away from England.

Lassie was in the duke's house in Scotland for some time. But she ran away again. She ran for many days. She went through many towns. She had to swim across lakes and rivers. She had to sleep in the woods.

One day she was sick and could not run. An old man gave her food. Soon she was better. She began to run again.

After many months Joe saw a dog at the school door. It was Lassie!



NEW WORDS:

Joe	ジョー
love	愛する、大好き
Lassie	ラッシー
town	町
duke	公爵
sold	< sell 売る
run away:	逃げる
sent	< send 送る
Scotland	スコットランド
across	～を横切って
lake	湖
river	川

[QUESTIONS]

- 1 Who wanted to buy Lassie?
- 2 Why did Lassie run from the duke?
- 3 Did she run away from the duke's house in Scotland?
- 4 Who gave her food when she was sick?
- 5 Could she get to Joe's school?

